

2014年2月13日  
発行：1年5組担任 西田光久

# 学級通信

## ドキュメンタリー映画「ひめゆり」

太平洋戦争末期の沖縄戦を背景に、従軍看護活動にあたった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の女学生ら、通称「ひめゆり学徒隊」の生存者達の証言を基にした、ノンフィクションのドキュメンタリー作品です。

『この作品は、「ひめゆりの塔」など、ひめゆり学徒隊をモデルとした劇映画は複数上映されているが、綿密な取材はなされているものの、いずれも一部脚色されており、どれも真実を伝えるものではなかった。ひめゆり学徒隊の生存者たちは、ひめゆり平和祈念資料館において、来館者に真実を語り継ぐ活動を続けてきたが、年数が経つにつれて証言者が減少していく事実と直面し、映像として記録を残していくことを目的に制作された。

生存者の証言採取を主眼に置き、1994年から13年間にわたり撮影。延べ収録時間は100時間を超えている。映画が完成するまでに既に3人の証言者が亡くなっている。この記録作業は現在も継続している。』

フリー百科事典『ウィキペディア』より

「この映画は、今を生きる私たちに多くの示唆と希望を与えるものと信じます。」と、映画監督の柴田昌平さんの言葉がありました。

## 感想を一部紹介します。

- ・ すごくこわかったです。証言して下さった人達の話がすごく細かい所まで話してくれて、そこにいなかった私でも周りにいっぱい亡くなっている人が想像できて、すごくこわくて、おそろしかったです。
- ・ この映画を観ることにより、後世の人に戦争の悲惨さを教えていくことができる。
- ・ 今後一生、平和を維持し、今、世界で戦争をしているところも戦争をなくしていこうと伝えていきたい。
- ・ 次の世代へとどんどん、絶対戦争はしてはいけないということを伝えていきたい。
- ・ 今回のビデオで証言して下さった人たちは、きっとあの過去を思い出すからとても苦しかったと思います。だから、その苦しい思いをもう二度と繰り返さないために、私たちが語り継いでいくことが大切だと思います。
- ・ 話の中で「生き残ったんじゃなくて、生き残された」と言った時に、僕はすごい衝撃と悲しみを感じました。
- ・ 当時、自分がもしその中で生き残ったら、なんか自分が生きていいのか、申し訳ない気持ちになると思います。
- ・ 戦争のもとであるケンカ・いじめをなくして戦争は絶対にして欲しくないと思いました。
- ・ 僕たちの世代では皆さんのような死人の出る戦争を繰り返さないようにします。
- ・ みんな冷静な判断ができなかったんだと思います。戦争は人を変えられると思いました。
- ・ 「戦争」という状況の中で、捕虜になると・・・、自決の仕方などを先生が生徒に教える。その先生の教えが間違っていることにも気づかないのではなく、気づけない。それがどれだけむごく、悲しく、むなしき事か。もう一度考え直すことが大切だなと思いました。